

令和 2 年度 墨田区立第四吾孺小学校 経営報告書

令和 3 年 3 月 1 6 日

学 校 目 標	◇健康で心豊かな子 ◇力を合わせてつとめをやりとげる子	◇よく考え進んで実行する子 ◇礼儀正しい子
目 指 す 学 校 像	◇学ぶ力が伸びる学校 ◇連携する学校 ◇安全・安心な学校	
目 指 す 子 供 像	◇元気でいききと学び、運動する子 ◇地域の中で育ち、社会に貢献する子 ◇四吾小の一員として、互いの良さを認め合い、高め合う子	
目 指 す 教 師 像	◇自ら学び、自己研鑽する教師 ◇教育公務員としての自覚をもち、保護者・地域社会の期待にこたえる教師 ◇「褒める・認める・きちんと論ず」ことができる、あたたかく、厳しく、情熱的な教師	

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	学校は、子供に確かな学力を育てるために、分かりやすい授業の実施に努めているか。	B	◇国語算数を中心に、基礎力定着をめあてとした朝学習・放課後補習等の充実。 ◇めあて・まとめを意識した授業づくりの推進。 ◇ICT 機器を活用した学習の展開。→全授業での活用。家庭学習での活用。 ◇読書指導の充実。→図書館司書との連携。地域図書館からの団体貸し出しや出張授業。	A	A
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対して、組織的に適切な支援を行っているか。	A	◇特支コーディネーター・SCを中心に、要支援児の実態を把握（月 1 回、ケース会議）、適切な指導実施。 ◇交流授業・活動を意図的計画的に実施し、社会性・障がい理解等の伸長を図る。 ◇関係諸機関（特別支援学校等）との連絡・活用。	A	A
	学校は、子供の将来の自立に向けた進路指導・相談活動に取り組んでいるか。	B	◇全教育活動を通して、意図的計画的なキャリア教育を実施。→地域人材・外部機関を活用した体験活動の充実。 ◇SC による児童面接の実施。	B	B
	学校は、教員の指導力・授業力を高めるために組織的に取り組んでいるか。	B	◇理科・校内研究の年間 5 回実施（研究授業 3 回・講演会 1 回 理科教具の取扱い講習会）。→問題解決型学習の定着。「問題把握・予想・実験・結果・考察・結論」の学習過程の定着。	A	B
	学校関係者評価委員会の意見等		◇少人数校の強みを生かした個に応じたきめ細かい指導が、支援を要する児童の成長につながっている。 ◇ICT 活用については、子供たちが取り組みやすい工夫をしている。 ◇行事等については、制約が多い中でできるかぎりのことを実施していただいたと思う。		

様式 4

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	学校は、子供の問題行動の予防や解決に組織的に取り組んでいるか。	A	◇全教員が共通認識のもと、問題行動に未然防止・解決にあたる。→週1回の連絡会実施。共通認識・共通行動で対応。 ◇いじめ・不登校対策の充実。→月1回の対策会議を実施し、情報の共有化を図り、組織的に対応。	A	A
	学校は、子供が基本的な生活習慣を身に付け、望ましい人間関係を作るための心の教育を行っているか。	A	◇あいさつの励行、言葉遣いを意識。→担当教員が毎日玄関に立ち、健康観察・あいさつ運動を実施。 ◇道徳教育年間計画の完全実施。 ◇「四吾スタンダード」の改訂と周知徹底。	B	B
	学校は、子供の安全を確保するための取組を行っているか。	B	◇健康・安全な生活環境づくり。→月1回の保健指導・安全指導。長期休業あけの生活リズム調査。情報モラル教室。 ◇食育・アレルギー対策の充実。→食育の強化。 ◇人権教育の充実。→日常的な指導と道徳の時間での指導の連動。不適切な言動への即時対応・指導。 ◇防災教育の充実。→近隣住民、校長による戦災・震災の教訓をふまえた防災教室の実施。	A	A
	学校は、子供や保護者からの意見や要望を把握し、教育活動の点検や改善に役立っているか。	B	◇保護者からの意見、保護者アンケートからの意見 →学校内で課題を把握、改善策の検討。改善策の実施 ◇PTA 行事関係の改善 →PTA 定例会を月1回実施し、改善策を検討、共通理解を図ったうえでの実施。	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等	◇生活リズム調査を行うことで、子供も保護者も生活リズムを意識して毎日を過ごすことができた。 ◇コロナ禍において、安全対策を講じながら、できる形で十分に対応していただけた。 ◇今後も、保護者アンケートの詳細な分析等を参考に、この状況下においてできることを着実に進めていただきたい。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
学校の管理運営	学校は、管理職の経営方針に基づき、組織的な教育活動・学校運営を行っているか。	B	◇経営方針の理解と、各教員の適切な目標設定。 ◇分掌組織上の役割理解と確実な実施。→確実な引き継ぎと、状況変化への柔軟な対応・変更。	A	A
	学校は、子供の実態に合わせた具体的な目標の設定及び評価を適切に行っているか。	B	◇教育目標の柔軟な設定変更。→内部・外部評価を総合的に勘案し、毎年度末に次年度目標を再設定する。	B	B
	学校には、適切な教育活動が行える環境・設備等が整えられているか。	A	◇月1回の施設安全点検の徹底。 ◇未整備の教室・施設の整理整頓と有効活用 ◇修理・改修が必要な施設への早期対応。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	◇学校施設は古いですが、よく手入れされている。清掃、美化も図られており、教育環境としては十分である。 ◇災害時の地域や家庭とのすばらしい連携を継続していただきたい。 ◇コロナ禍にあっても、四吾孺小の子供たちは元気に生き生きとしている子が多い。何よりそれが学校がうまく運営されている証拠だと思う。 ◇サーキュレーターやアクリルパネルの導入、教職員による毎日の消毒等、適切に対応していただけた。			

様式 4

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域連携	学校は、教育方針や日常の教育活動の様子などを分かりやすく伝えているか。	B	◇学校便り、学級便り、各学年通信等を通して、教育活動の実際を伝える。 ◇学校 HP のさらなる充実。	B	B
	学校は、保護者や地域の理解や協力を得て教育活動を進めているか。	B	◇各種教育活動への保護者の協力（ボランティア等）。→体育・文化的行事を中心に協力要請。 ◇地域人材を活用・協力を得ての体験学習を実施し、地域の一員としての自覚を高める。 ◇地域行事への積極的な参加。	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等	◇校内学童保育運営等、施設利用に対して柔軟にご対応いただいた。今後も地域の健全育成の一端を担えるように、連携協働できればと思う。 ◇関係者評価の際に、今年度の取り組み内容が具体的にわかる資料があれば、より評価しやすいと思う。 ◇学校からの連絡メールを多く発信していただけた。今後は、情報保護を講じたうえで、各種お便りはもとより、学校公開を「オンライン」でできるようになればよいと思う。 ◇学校便り等に写真を多く掲載してくれたので、活動の様子が視覚化されて安心できた。			

2 令和2年度学校評価のまとめ

◇コロナ禍により、のきなみ計画の変更を強いられた1年間であった。しかし、「冷静に状況判断し、今できることを確実に実行すること」を第一義とし、安全安心な学校経営を心がけた。児童、教職員の健康状態も良好であり、学ぶべき内容は、おおむね修了する見込みである。

◇臨時休校後、GIGA スクール構想（タブレット導入、ICT を活用した学習の充実など）の取り組みが加速した。先進校の取り組みや区教委の研修資料を参考に、年度内に校内研修を積み重ね、新年度からの本格実施に備えている。

◇各種たよりの発行などのアナログ情報発信に加えて、情報連絡メールの活用、ICT を利用したアンケート調査実施などの新たな取り組みも開始した。現在、ホームページの充実（レイアウト変更、掲載内容の充実など）を進めている。

◆来年度も、安全安心を最優先した学校経営を進める。また、コロナ禍の状況変化に柔軟に対応すべく、常に複数の計画案・実施案を立案しながら、教育活動のさらなる充実を図っていく。

以上の通り報告いたします。

墨田区立第四吾嬬小学校 校長 清水 雅也